

ボツワナ共和国月報(2021年5月)

主な出来事

【外政】

- マシシ大統領のレト実務訪問
- マシシ大統領のアンゴラ実務訪問

【SADC】

- SADCダブルトロイカ臨時首脳会合の開催

【経済】

- 2020年の年平均インフレ率は1.9%
- 3月の輸入額、2月より40.2%増加

【外政】

○マシシ大統領のレト実務訪問

19日、マシシ大統領は、レトに日帰りで実務訪問を行い、マジヨロ・レト首相と会談した。両国首脳は、二国間関係及びSADC地域、とりわけモザンビークにおける安全保障に関し協議した。また、マシシ大統領はSADC事務局長選挙に出馬しているボツワナのマホシ候補を紹介した他、本件に係るレトの支持を要請した。これに対して、レトは同人への支持を検討する旨約束した。

○マシシ大統領のアンゴラ実務訪問

31日、マシシ大統領は、アンゴラへの実務訪問から帰国した。マシシ大統領は、ローレンソ・アンゴラ大統領と会談し、二国間及びSADC地域における課題、相互利益に関し協議した。また、本機会を捉え、マシシ大統領は、SADC事務局長選挙に出馬しているマホシ候補を紹介した。次期SADC事務局長は、8月にマラウイにて開催される第41回SADC首脳会合で決定される。

【SADC】

○SADCダブルトロイカ臨時首脳会合の声明発表

27日、南部アフリカ開発共同体(SADC)は、モザンビーク・カーボデルガード州パルマ郡における武装勢力の現状を調査するため派遣したSADCオーガン技術チームの報告書を元に、モザンビークへの今後の対応等につき検討するため、SADCダブルトロイカ臨時首脳会合をモザンビークにて開催した。同コミュニケによると、同会合は、テロリズム及び暴力的な過激主義の行動に対する持続的な解決へ向けた進捗状況を確認した他、SADC地域の対応としてモザンビークに対する支援を検討した。また同会合にて、6月20日までに、モザンビークにて首脳会合を開催することに合意した。

【経済】

○2020年の年平均インフレ率は1.9%

2020年の年平均インフレ率は1.9%で、ボツワナ中央銀行が設定したインフレ目標範囲の下限の3%を下回った。主な要因は、COVID-19 パンデミック拡大に対処するため実施されたロックダウンで、消費者支出が減少したことによる。

○3月の輸入額、2月より40.2%増加

2021年3月の輸出額は80億1,940万プラで、2月の63億5,750万プラから26.1%増加。輸入額は89億6,510万プラで、2月の63億9,650万プラから40.2%の増加。主な輸入品は、ダイヤモンドが40.1%、化学品・ゴム製品が11.0%、燃料が10.1%で、主な輸出品はダイヤモンドが93.5%を占めた。